

2010年 FIFA ワールドカップにおけるシュート数と勝敗に関する研究

中川 友裕 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 金田 安正

キーワード: サッカー, シュート, 勝敗

I. 緒言

現代のサッカーでは、ポゼッションサッカーが主流となっているが、いかにボールを支配して、ポゼッションを高めていても、シュートをうたなければ試合に勝つことはない。私は、日本代表の試合を欠かさず見るが、やはり世界の強豪国と比べシュートの意識が非常に薄いと感じる。そこで本研究では、2010年 FIFA ワールドカップでのシュート数（ペナルティエリア内からのシュート数、ペナルティエリア外からのシュート数）を調べ分析しシュート数が勝敗にどのように影響するかを研究する。

II. 研究方法

2010年 FIFA ワールドカップでのすべての試合のシュート数のデータをもとにシュート数が試合の勝敗にどのように影響するのかを研究する。研究対象は2010年 FIFA ワールドカップに出場したすべての国とする。

III. 結果と考察

1試合の平均シュート数は、上位4か国は、スペイン(16.2本)、オランダ(12.8本)、ドイツ(14.5本)、ウルグアイ(14.4本)となり、最も総シュート数が多いアルゼンチン(19本)と比べるとシュート数はそれほど多くはない。日本も10.5本と非常に少ない。さらに各試合の結果からもシュート数が対戦相手よりも多い場合でも敗戦するケースが多かった。これらのことを考慮すると総シュート数が多ければ勝率が高くなるとは、一概には言えない。ペナルティエリア内からのシュート数も上位4か国は、1試合平均、スペイン(6.7本)、オランダ(5.2本)、ドイツ(7.7本)、ウルグアイ(6.1本)となり最も多いアルゼンチン(8.2本)と比べると、わずかであるが少ない。しかし対戦相手よりもペナルティエリア内からのシュート数が多い場合の勝率は非常に高い。つまりペナルティエリ

ア内からのシュート数が勝敗に及ぼす影響は大きいと言える。日本はペナルティエリア内からのシュート数が4.2本と上位4か国と比べると非常に少ない。ペナルティエリア内からの枠内シュート数は、1試合平均、スペイン(3.7本)、オランダ(3.1本)、ドイツ(4.5本)、ウルグアイ(3.4本)と上位4か国は多くドイツが最も多い。各試合の結果からもペナルティエリア内からの枠内シュート数が対戦相手より多い場合、勝利する確率は非常に高い。さらにペナルティエリア内からの枠内シュート率も上位4か国は、スペイン(55%)、オランダ(59%)、ドイツ(59%)、ウルグアイ(55%)と高い。最も高いのは、日本の70%となった。2位がオランダとドイツである。

IV. 結論

勝利に結びつけるには、どのようにペナルティエリア内に侵入してシュートするか、あるいは、ペナルティエリア内でいかに落ち着いて冷静にシュートできるかが重要である。日本は長年、決定力不足と言われているが、ペナルティエリア内からの枠内シュート率は、今大会1位である。しかしペナルティエリア内からのシュート数は非常に少ない。つまり日本は決定力がないのではなく、ペナルティエリア内に侵入できておらず決定機をつくりださないということである。日本が今後、世界の強豪国と互角に戦うには、ポゼッションサッカーをしながらいかにペナルティエリア内に侵入していくかが鍵となってくる。世界チャンピオンとなったスペインは、多くの試合で敵チームに守りを固められていたにも関わらずペナルティエリア内からのシュート数が多い。これが日本と世界の強豪国との差である。

V 参考文献

W杯記録集

<http://members.jcom.home.ne.jp>